

登録コード	E4654900	開講年度	2026				
授業科目	造形指導演習					担当教員	大島 賢一
英文授業名	Seminar on Instructional Strategies in Art Education					副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	3-4年生
講義室	教育N 2 0 3 講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				⇔	教育における造形活動の意義と、その果たす役割を理解することができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				⇔	造形活動を支える、知識及び技能を得る。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・ 素材、技法などの各面から、多様な造形活動を経験する。 ・ 美術館等の外部施設と協力し、グループ活動として造形ワークショップを企画し、実施する。						
(5)授業計画	第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：素材体験 ① 平面的素材の体験 第 3 回：素材体験 ② 立体的素材の体験 第 4 回：技法体験 第 5 回：ワークショップ企画検討 対象及び目的からの検討 第 6 回：ワークショップ企画検討 類似企画の調査 第 7 回：ワークショップ企画検討 企画書作成 第 8 回：ワークショップ企画発表 検討会 第 9 回：ワークショップのための準備 第10回：ワークショップの実施 ① 第11回：ワークショップの実施 ② 第12回：ワークショップの実施 ③ 第13回：ワークショップの実施 ④ 第14回：授業の総括 まとめ テストは行わない。期末課題としてレポートを課す。 授業の一部について、連携する施設において集中講義として実施する可能性がある。 その日時等については、受講生の予定を勘案して授業において決定する。						
(6)成績評価の方法	・ グループワークによるワークショップの企画及び実施 40％ ・ 授業後に課されるレポート 60％ ・ 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(7)成績評価の基準	最終レポートについては、自身の実施した活動の客観的省察が行われていれば「水準にある」。自身の活動の問題点を的確に捕らえられていれば「やや上にある」。その問題点に対するふさわしい改善方法についての提示があれば「かなり上にある」。そこで改めて提示される構想が教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	ワークショップの企画実施にあたっては、授業外において各自調査や材料収集などを行うことが求められる。						
(9)履修上の注意	・ 一部活動について連携施設において実際に行う可能性がある。 ・ 授業の一部については、夏季休業中などにおける集中講義となる可能性がある。 ・ 美術科指導法基礎を履修していることが望ましい。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	メール予約で随時。N213 oshima@shinshu-u.ac.jp 026-238-4141						
【教科書】	文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』						
【参考文献】	授業において都度指示する。						